萬物雛形 工業画譜

序

我ガ邦古来本草術ニ至リテハ代々アリト雖モ其ノ人
術ヲ究メ能ク利用ニ供スルノ資料ハ即チ書籍ニテ
有リ例ヘバ斯人ノ廣ク世ニ行ハレシ書籍ナド
用ヒラレバ其ノ効ノ必ズヤ大ニシテ其ノ利益
難易ヲ求メ得テ斯ノ術ノ發達ヲ意ハンモノ
最モ斯ノ道ニ志ス人々ノ常ニ須ク必要ヲ感ズル所

まして往復の意を述ふるにおいては郵便ある
到所相往来（要）等日用に欠からさる当用文を以て
すること諸々の利益する所甚だ大なりと云ふべし
故に此の頃本誌を発行するに用ふるの書は一を以て新約に
意匠を施しもつて交通に利益あらしめんと欲する材料
に欠くへからざる一巻を綴るの意あらんと云ふ　主筆
某日頃記す家録に代ゆる（筆）也　編輯者

竹堂主人　識

普現菩薩

締太鼓
簫笛
音呼ニ菊籠
芦ニ蟹

文殊菩薩

萩ニ月

猩猩音呼木蓮

蟬取小僧

烏ニ柳

抜目鷹と松

夏菊

春の山水

蘇鉄と鉢

乙女の潮狩

寳亀と盃

蟹盡し

秋の山水

牡丹花

はき柄にしゆく

文書の群

鷺に河骨

大黒に鼠

朝がほに鉢

犬ノ子あそび
夏ぎく
石山寺秋月
椿ニ志とゝう鳥
茶の道具
恵比壽の鯛つり

冬の山水
擶戴と石穀
鶉と粟穂
小鍛治
宗近
わんこうまたづ

皇祖東夷征

象ノ唐鉾

正月の禮儀

牡丹籠

鉢植牡丹

宮嶋小町ニ具盡

八朔の月供に秋草

平の敦盛

狩場

丹頂鶴ㄱ松

大田

柚ㄱ薑

下の関晩景

煙草入

鳳凰の舞
刀豆
四君子
梅に雀
俳諧師

秋月観詠
文人道具

宮具
和歌三神
夏の山水
鯛ま比目魚
鶯ま梅の花
秋の香物
葡萄

生花に菖蒲
麒麟
蓮に鶺鴒
煎茶道具
冬の山水
雪の下
野猿
鶴に松

鴨づくし
鮭と鮒
官女
茶湯
枇杷
らん草に水玉
鳩の群集
硝子
牛と小童

梨
松島
白狐ニ玄狐
庄屋
瓢
八幡太郎
西行ニ銀の猫
鷹
菊ニ蜻蛉

夏の山水

夢の宝

水入と志をり

藤の花

大黒と鼠

廿四孝
秋の山水
鵞鳥
秋遊
行雁
芙蓉の花
松に鷹

牡丹獅子

貝づくし

春の山水

秋の山水

火鉢五徳

よせ柿

香爐

佛手甘

章魚蝦魚

兎とくさ

茶道具

猫ヿ鼠
鶏
野馬
青物づくし
寶づくし
尾長鳥菊頂ヿ梅
夏の山水

蓬莱山
武内宿祢兜
茶菓子
籠ニ鳥
木蓮ニ蜂
蟬扱
桃
金仙花
文武冠
春の山水

有明に白菊
鹿児火鉢に猫
蘭に稲子
川せみ
椿にこうろぎ
夕景
香箱
天神社
もさ子鉢

庄屋
五重の塔
書齋
武家
わうの木に鳩
大職冠
鎌足
料理

羊
秋の山水
漁夫
佛具
櫻の花
ふとうま
とりげ
雷獣
春の山水

たんぽ
芝むぐりヱ蕨
安蘇山の遠望
針仕事道具
鼠ヱ飾
橘の實
むくの實
物部守屋

鷲
乙女糸取
鉄瓶
宍道湖
芍薬に鎌
烏瓜に小鳥
麦に雲雀
百合の花
鉢に水仙石青

後藤祐乗

へちま

蟷螂

しゆろの木

どん栗と蝸牛

秋涼

野狸

香具

櫻がろうと
けむし

雷音
安積山
の杯道具
きわ〜に
兜虫
筏舟
やぎ
三月
南天
小蝶
蛇に
へび
いちご

蛙子
枯蓮

女郎蛛

烏帽子岩

蓮華草

木爪
玉虫

石竹
亀

虎

冨士見臺

明治卅九年三月三十日印刷
〃 年四月三日発行

工業画譜

版権所有

東京市浅草区南元町廿四番地
発行者 三輪逸次郎

神田区柳原河岸十二号地
印刷者 同 森友吉

浅草区蔵前南元町
発売所 同 いろは書房